

第1回 FD 研修会が開催されました

7月27日(火) 国際交流センターとの共催で「第1回 FD 研修会」が開催され、40名以上の教職員の方々にご参加いただきました。当日の様子といただいた感想をご報告します。

【研修の概要】 (報告: Stoeckel, Bennett)

- テーマ: COIL 型教育の理論と実践
～国際交流と ICT で教育現場を変革する～
- 日時: 7月27日(火) 16:30-18:00
- 場所: zoom 開催 ■ 当日参加者数: 42名



COIL Workshop

On July 27, the FD Committee, together with the Center for International Exchange, co-sponsored a workshop on the Theory and Practice of Collaborative Online International Learning (COIL). The workshop featured a lecture by COIL pioneer Professor Keiko Ikeda of Kansai University entitled (COIL) with Overseas Universities: Looking to the Post-Corona Disaster. This was followed by descriptions of COIL activities at UNP by faculty members Yasuyuki Takahashi and Victor Gorshkov.

7月27日(火)、国際交流センターとの共催で、第1回FD研修会「COIL型教育の理論と実践～国際交流とICTで教育現場を変革する～」を実施しました。COIL型教育のパイオニアである関西大学の池田佳子教授をお招きし、「海外大学と連携して行うオンライン協働学習(COIL)ーポストコロナ禍を見据えてー」と題したご講演をいただきました。その後、本学の高橋靖幸講師とビクトル・ゴルシコフ准教授より、新潟県立大学におけるCOIL型教育の導入事例についてご紹介いただきました。

Description of COIL

COIL is a learning method that uses information and communications technology (ICT) to build classes online in collaboration with overseas universities. Last year, UNP began implementing COIL with partner universities in Japan and the United States. In one such endeavor, the Department of Child Studies held COIL-type classes with a university in Hawaii on two topics: childcare methods and techniques and overseas on-the-job training. It is thought that COIL not only has the potential to promote international understanding; its use of ICT also makes it advantageous during the COVID-19 pandemic when face-to-face classes are not advisable.

COILとは、情報通信技術(ICT)を活用し、海外の大学と連携してオンラインで授業を構築する学習方法です。本学では昨年度から、日本とアメリカの協定校と共にCOIL型教育を実施しています。その一つとして、子ども学科ではハワイ大学と「保育方法・技術」と「海外実地研修」の2つの授業においてCOIL型授業を実施しました。COILは、国際理解を促進する可能性があるだけでなく、ICTを活用することで、対面授業ができないコロナ禍においても有用な教育方法であると考えられています。

Summary of Presentations

Keiko Ikeda : Professor Ikeda described the goals of the JPN-COIL association in promoting COIL activities, facilitating the sharing of educational practices, and encouraging training programs. The talk then introduced examples of COIL programs that have been running between Kansai University and Clemson University in the United States. One example involved students in Japan who were studying English for Science and Technology working to complete projects with US-based Bioengineering students. The projects concluded with collaborative presentations given in Kansai by students of both institutions. The talk concluded with a discussion of some of the positive aspects of learning in a COIL environment. These included flexible and varied classroom activities (lectures, small group discussions, team projects), as well as opportunities to develop intercultural competence.

池田教授は JPN-COIL 協議会の目的である COIL 活動の推進、教育実践方法の共有化、トレーニングプログラムの奨励についてご説明くださいました。続いて、関西大学と米国クレムソン大学との間で実施されている COIL プログラムの例が紹介されました。その一例として、日本で科学技術英語を学んでいる学生が、米国のバイオエンジニアリング学科の学生と一緒にプロジェクトを完成させたケースとして、両大学の学生が共同でプレゼンテーションを行ったことなどがご紹介されました。講演の最後には、COIL 環境での学習の利点として、柔軟で多様な教室での活動（講義、小グループでのディスカッション、チームでのプロジェクト）や、異文化間での能力開発の機会等が挙げられました。

Yasuyuki Takahashi : Professor Takahashi described the COIL project that he developed in his Childcare Methods and Techniques class. In this course, third-year students in UNP's Child Studies Department and first-year students in the Early Childhood Education course at the University of Hawaii Honolulu Community College discussed the similarities and differences in early childhood education in their respective countries. The project was asynchronous and was conducted entirely in English. Forty-one students from UNP and 32 from the partner school participated, with the project successfully implementing high-quality collaborative learning.

高橋講師からは、「保育方法・技術」の授業で展開した、COIL プロジェクトについてご紹介をいただきました。本学の子ども学科3年生とハワイ大学ホノルル・コミュニティ・カレッジの幼児教育コース1年生が、互いの国の幼児教育の共通点と相違点について議論し、自国の幼児教育の特徴を新しい視点で理解することに取り組みました。このプロジェクトでは、非同期型の方法が採用され、すべて英語で行われました。本学から41名、協定校から32名の学生が参加し、質の高い協働学習を実践することに成功しました。

Victor Gorshkov : Professor Gorshkov described a COIL project for his UNP course entitled Current Issues in the World Economy. UNP students and learners from National Economics University in Vietnam worked collaboratively to deepen their understanding of the role of culture in international business and its importance for economic development. The project was conducted entirely in English. In total, 57 students participated, 35 from UNP and 22 from the partner institution.

ゴルシコフ准教授からは、「Current Issues in the World Economy」における COIL プロジェクトについてご紹介いただきました。本学の学生とベトナムの国民経済大学の学習者が協力して、国際ビジネスにおける文化の役割と、経済発展のための文化の重要性について理解を深めました。このプロジェクトはすべて英語で行われ、本学から35名、協定校から22名の学生が参加しました。



Promoting COIL at UNP

The goal of the July 27 workshop was to increase the number of subjects engaged in COIL-type lessons at UNP by deepening faculty members' understanding of this educational approach. In addition to the workshop, the Center for International Exchange will offer ongoing help to faculty members to identify suitable partner universities for COIL classes. It is hoped that these things will contribute to the quality and diversity of approaches to teaching and learning at UNP.

本研修は、COIL に対する教員の理解を深め、COIL 型授業を行う科目を増やすことを目的として実施されました。今回の研修に加えて、国際交流センターでは、COIL 授業を行うのに適したパートナー大学を見つけるためのサポート等を継続的に行っていきます。これらの活動により、本学における教育・学習方法の質と多様性の向上に貢献することが期待されます。

【参加者アンケートより】(抜粋)

<感想>

- * 池田先生のご講演がたいへんわかりやすく、大学教育における COIL の可能性を具体的に学ぶことができました。
- * 新しい教育方法の可能性を感じました。池田先生の意見に大いに賛同しました。
- * これまで COIL 型授業に触れた経験はありませんでした。ICT ツールを用いた国際協働学習と新しい視点からの教育の可能性を知ることができ、大変有意義な時間を過ごさせていただきました。
- * COIL は、国際交流に限らず、様々な専門職教育の協働学習に活用できる取り組みに感じました。海外では、教育でリフレクションがしっかり行われている印象があり、COIL 型教育でそのような大学、学生と関われることで、リフレクションを当たり前に行えるような教育にも繋がると良いなと感じました。
- * 留学、国際交流、ICT を利用した授業運営、など、多角的に視野を広げることができました。
- * 協働学習、肯定的他者依存が印象に残りました。計画と準備が学生の理解を広げることにつながることを再認識しました。

<今後に活かしたいと思ったこと>

- * I am planning to do COIL with two of my courses in the fall semester. I am struggling with the "collaboration" aspect and it was helpful to see how Takahashi Sensei and Victor Sensei handled the group collaboration. Thank you for making this possible!
- * オンライン授業でなかなか学生の主体的な授業参加が進められていなかったので、私の授業でも COIL 型授業による協働学習の取り組みが活用できないかどうか検討してみたいと思います。
- * 機会があれば、非同期型と同期型の授業をミックスさせるかたちで、COIL の授業を展開してみたい。
- * COIL を使うかどうかはさておき、海外の大学との間で、一つのを共同で作れるような関係を構築することは、難しいことではあるが目指さなければいけないことだ、と感じたことです。
- * オンライン授業でグループディスカッションを行うと、最初はなかなか話の糸口がつかめないことがあるため、COIL の学習モデルの流れは、通常のオンライン授業でも活用できると思いました。
- * ICT ツールの活用手段を習い、通常のオンライン授業にとりいれてみたいと思いました。
- * 国際交流以前に、新潟という地域性から、他地域との交流を深めるスキルとして活用していきたい。

【研修を振り返って】

昨年来のこの社会状況において、人と人との距離を保ったまま「学ぶ」ということが求められ、それに対応した教育の在り方が模索されています。今回の COIL に関する研修では、このような現代社会において、国際化に対応した異文化間での協働学習についての理解のみならず、デジタルを活用した大学教育の高度化の必要性と可能性についても理解を深めることができました。本プログラムは学生と同時に教員も学ぶという教育設計であり、そのためには教員のスキルアップも求められている…ということもご講演の中で池田先生から明示していただき、今後ますますの研鑽が必要となることを改めて感じたところです。(文責：角張)

ぜひご活用
ください

学内の教職員は「オンデマンド」にて当日の研修会を視聴できます。
視聴方法については manaba の確認もしくは事務局までお問い合わせください。

FD 活動のページができました

県立大学のホームページ(教育・研究のページに)に「FD 活動」のページができました。
こちらから、これまでの研修等の様子などを掲載した【FD 委員会便り】をご覧ください。

ページはこちらから ➡ <https://www.unii.ac.jp/education-research/faculty-development/>